

ブドウ「シャインマスカット」の短梢剪定栽培における多収・早期成園化技術の確立(H31～33年)

果樹試験場

背景・目的

- ・「シャインマスカット」の栽培面積は全国的に急増しており、山梨県の果樹生産振興において、最も重要な品種に位置付けられる。
- ・消費者の人气が高く、輸出による国外への需要も多いことから、依然として高単価で取引されている。
- ・今後もさらに新植・改植が進む中で、農家所得の向上を図るため、増収技術の開発が求められている。



- ・既存樹の樹形改造や、新規植付け樹の栽植間隔の縮小による、高品質で多収が可能な栽培技術を開発する。また、早期に成園化が可能な技術の確立を図る。



シャインマスカット

農研機構果樹茶業研究部門で開発された皮ごと食べやすく、食味良好の大粒品種

研究内容

事業費： 10,731 千円

1年目

主枝間隔の違いによる収量、生育特性、果実品質の調査

- 既存樹の樹形改造
- 新規植付けの栽植間隔検討
従来2.25m → 1.2～1.8m

- 調査項目
収量、樹勢、葉色、果実品質(糖度、果粒重)

安定同位体の炭素を用いた転流の解明

- 新梢間の養分転流の有無を調査

新植樹での生育障害が少ない台木と副梢を利用した樹冠拡大の検討

- 188-08、グロワールを使用
- 調査項目
生育障害発生程度、樹勢、樹冠面積

【経費： 3,586千円】

2年目

継続して、主枝間隔の違いによる収量、生育特性、果実品質を調査

- 調査項目
収量、樹勢、葉色、果実品質(糖度、果粒重)

安定同位体を用いた養分転流の解明

樹冠拡大の検討

- 調査項目
生育障害発生程度、樹勢、樹冠面積、果実品質

【経費： 3,576千円】

3年目

主枝間隔の違いによる収量、果実品質、樹体への影響を調査

- 調査項目
収量、果実品質(糖度、果粒重)、樹勢

着房数の検討

- 新梢間の養分転流を解明し、着房数の増加を検討

樹冠拡大の検討

- 調査項目
生育障害発生程度、樹勢、樹冠面積、果実品質、収量

【経費： 3,569千円】

期待される効果

- ・単位面積当たりの収量増加(従来の1.5倍以上)により県産「シャインマスカット」の生産量が大きく増加する。
- ・早期成園化により、未収穫期間が短縮され、生産量の拡大につながる。
- ・生産量の拡大により、農家所得が向上するとともに、安定供給が図られ、山梨県産果実のブランド力が強化され、需要拡大も期待できる。

山梨県の美味しい「シャインマスカット」を、もっと全国の人に食べてもらいたい!

